令和5年度　兵庫県立湊川高等学校　学校評価

評価基準　5…とてもよくできた　4…よくできた　3…できた　2…あまりできなかった　1…できなかった

教育方針	（1）綱領「誠実・協同・自由・自治」の精神を踏まえ、勤労を尊び、学ぶ意欲を育み、自己教育力の育成に努める。 （2）生徒一人一人の個性を尊重し、きめ細かな教育的支援によって自他を大切にする心としなやかにたくましく生きる力を育む。
教育目標	1　人間として不可欠な倫理観の育成と人権尊重の精神に基づく教育の充実を図る。 2　自ら学ぶ意欲を育て、基礎的・基本的な学力の定着を図る。 3　定時制高校としての特色を生かし、魅力ある地域に開かれた学校づくりを進める。

番号	分掌等	本年度の重点目標	具体的な取り組み	評価		総括（成果及び課題と改善方策）	学校関係者評価
				教員	保護者		
1	総務部	防災避難訓練、震災講話等により、生徒・教員共に防災意識を高める	防災避難訓練を実施し、避難経路を確認する。また、阪神・淡路大震災の教訓伝承のため震災講話を行い防災意識を高める。緊急管理ﾏﾆｭｱﾙを見直し、より実用性を高める。	4.3	3.7	成果：地震および火災を想定した避難訓練を実施した。防災講話では、校長が阪神淡路大震災で自ら被災した状況を当時の画像を交えて話すことで、防災についてより身近に感じ、防災意識を高めることができた。 課題：避難訓練の充実を図るため、「教員のみ」「予告なし」等の訓練方法について検討する。	各生徒にしっかりと関わり、対話を大切にしている。進路も、一人ひとりとの関わりに力を注いでいる。授業見学週間については、お互いのフィードバックを行っている。UDの取組みをしているので、ここにも焦点をあてて共有していくとなおよい。社会規範を守らせるための指導と規範意識を育てる取組みの両輪で進めることが大事である。
2		ホームページの更新、学校案内の配布や学校紹介チラシ(みなふく通信等)配布を行い、広報・宣伝活動に努める	ホームページ（動画配信も含む）、オープンハイスクールなどを通して本校の魅力・特長を発信できるようにする。学校紹介をより魅力あるものに改善する。	4.5	3.5	成果：ホームページの更新を積極的に行い、給食献立はすべて掲載した。オープンハイの見学者の感想においても好意的なものが多かった。職員による中学校訪問を実施し広報に努めた。 課題：ホームページのさらなる充実を図る。本校の魅力について、中学生や保護者等にいかに広く発信することができるか、その方法や内容について検討が必要である。	
3	教務部	基礎的・基本的な学力の定着を図る。	少人数指導、習熟度別授業等を活用し、個に応じた学習指導を行う。また、生徒の学力を正確に把握し、わかる授業を実践するため、教材の改善や指導方法を工夫する。	4.1	3.8	特に1年生と2年生については、ほぼすべての科目で少人数クラスを展開することができ、生徒一人一人に丁寧な対応で授業を実践することができた。また、教材についてもルビ対応など、生徒が理解しやすいよう工夫している。今年度は1月に授業見学週間を実施し、教科を超えた指導方法の共有を図った。	
4		学習評価についての理解を深め、実践する。	評価規準を明確にし、指導と評価の一体化を実践する。また、学習評価について、より一層理解を深めるために研修の機会を設ける。	3.9	4.0	1年生と2年生については、新学習指導要領における評価規準の作成がまだ十分でないところがある。観点別評価については、教科内での共有はできているが、職員全体で理解を深めるための研修の機会を設けることができなかった。	
5	生徒指導部	社会的規範意識と正しい判断力を持ち、自主的・自律的に行動できる生徒の育成に努める	授業を含む、様々な学校行事や体験活動を通じて他者への思いやりや助け合いの精神を学ぶ。	4.0	4.0	先生方のご協力により、校内でタバコを吸う生徒がほとんどいなくなった。しかしながら、タバコを吸う生徒が減ったわけではなく、校外に出てタバコを吸う生徒をどうすべきか悩んでいる。ノースマホデーを設定して、授業をしっかりと聞く姿勢を持ってほしいが、中には反発する生徒もいる。	
6	生徒指導部	1人1人の生徒を大切にし、個々の生徒の状況に応じた効果的な指導を行う。	生徒との対話等を通じ、生徒理解に基づく指導を行う。誰もが安心・安全に学べる学校にするため、情報共有を密に行い、全教員で足並みを揃えた効果的な指導を行う。	4.1	3.8	生徒個人個人に応じた指導を心掛けていたが、うまくいかない部分もあった。今年度は先生方の協力があり、足並みをそろえた指導が行えたのではないかと考える。今後、授業の大切さを生徒にわかってもらうために、もっともっと対話をしていかないといけないと感じている。	
7	進路指導部	キャリア教育の一環としての進路指導を行う	総合的な学習の時間、総合的な探求の時間や進路HRにおいて、「進路の手引き」や「高校生キャリアノート」を活用し、自己の将来について深く考える機会を設ける。	4.1	3.3	進路の手引きやキャリアノートの活用だけでなく、外部講師の先生を招き将来について考える公演会を行い、生徒により具体的に進路について考える機会を与えることができた。課題としては、就職か進学の方向性が決められても具体的なところまで決め切れていないので、一人一人の面談を行うなど個に応じた指導を行っていきたい。	
8		在校生の進路意識を啓発する	自己の進路適性を把握し、進路意識の向上を促すために、2年生と4年生を対象に「企業説明会」を実施し、就職に対する理解を深めることで、進学や就職など自己の進路適性について考える機会を設ける。	4.1	3.7	企業説明会を行うことで生徒により具体的な企業のイメージを想像させることができた。課題としては、生徒の講演会への積極性をもう少し向上させたい。対応策としては、企業講演会前に生徒にどの企業が公演来るのか情報提供を行い興味を引き、積極的に参加できるように促したい。	
9	保健部	健康診断受診率を増加し、生徒の健康意識・自己管理能力の向上を目指す	健康診断前にはSHRなどを利用し、健康診断の意義について保健教育を行う。	4.1	3.7	検診受診率は増加したが、検尿提出率は67%に止まった。SHRを利用して検尿についての保健教育を一部の学年に対して行ったが、時間も短く、意義を説明し理解を促すことはできなかった。本校のヘルスプロモーションは大きな課題であるが、手つかずである。	総務部から防災についての取組み、総務部・生徒指導部から地域清掃の取組みの報告があった。ぜひ今後も推進していって欲しい。今後、地域と高校で連携することができればよいと考える
10		体験型保健講話等により、学習活動に取り組む体の基礎作りを行う	感覚統合により実行機能を高めることを目指し、学習活動に意欲的に取り組むための土台となる体を作る。具体的取り組みとして、ヨガとボクシングの体験型保健講話を実施する。	4.3	4.0	積極的に取り組む者とそうでない者の差が激しく、体を動かすことではない体験型講話を導入することが必要である。続けることによって効果が表れるので、今後も続けていく必要性がある。	
11	1年	生徒の生活実態や学習状況等を把握し、知識・技能の定着を図る。	少人数指導や習熟の程度に応じた指導により定着を図る。	3.9	4.3	教科別に少人数指導や習熟の程度に応じた指導を行うことにより学習内容の定着を図ることができた。生徒個々人の学習意欲のより一層の向上をはかる手立ての工夫がより求められる。	
12		基本的なルールやマナーを遵守し、社会の一員として能力を育成する	多様な人々や異なる文化の価値観を理解し、共生する態度を育成する。	3.6	4.5	多様な人々や異なる文化の価値観を理解し、共生する態度を育成する方向を示すことができた。学内、社会のルールやマナーの順守について一層の育成、理解が求められる。	
13	2年	生徒一人一人が自己肯定感を高めるとともに、互いを尊重できるよう支援する	・日々の声掛けを大切にすると共に、「褒める」ことを通じて自己肯定感を育む。 ・学校行事等を通じて、自分と異なる他者を認め、思いやりのある行動力を育む	4.3	3.8	昨年度からの取り組みを拡大し、「MVPファイル」、「Good　Jobファイル」、「三行日記」を通じて生徒の自己肯定感を高める取り組みができた。今後、これらの取り組みをより一層充実させ、自己の行動に責任を持ち、互いを尊重できる姿勢を養いたい。	
14		将来への進路意識を高めながら、充実した学校生活を送れるよう支援する	・LHR等を通じて、自己理解を深め、卒業後の進路意識を育む。 ・家庭との連携を大切に、生徒の成長するサインを見逃さず、こまめな情報共有を行う。	4.1	3.7	LHRでは、進路指導部と連携して進路意識を高める活動ができた。しかし、私生活の乱れや気の緩みから欠席遅刻がかさむ生徒が多かったことや、進路意識が十分でない生徒も多くいるため、家庭との連携を大切に、進路実現に向けて学校生活の充実を図る取り組みを行いたい。	
15	3年	学校は学びの場であるということを自覚させ、授業をしっかりと受けることで、全員卒業を目指す。	全員が卒業できるように日々の授業を大切にするように生徒に働きかける。また、授業を円滑に行うために環境づくりを行う。	3.5	4.0	授業をしっかり受けることができた生徒もいたが、全体的に学びの場という自覚を持たせることができなかった。全員卒業を目指すという点では、例年より、補充が少なかったので、良かったと思う。	
16	3年	自分とじっくり向き合い、進路を実現させる	進路指導部と協力・連携し、自己の適性を知り、進路を実現させる。	4.0	4.3	進路部の熱心な指導により、多くの生徒が進路実現をすることができた。また、進路実現に向けて、連携・協力することができた。	
17	4年	相互理解を深め、互いの人権を尊重して思いを伝え合い、支え合う集団作りをサポー トする。	LHRや学校行事、生徒との対話や湊川高校の人権尊重にとり組んだ先輩たちの活動をLHRで学び話し合いの場をつくることなどを通して自己の内面に向き合うとともに、互いに思いを伝え合い、異なる立場や意見への配慮の重要性を認識して、互いの人権を尊重する関係をつくる。	3.7	4.0	湊川高校の人権尊重に取り組んだ先輩たちの活動を紹介することができなかった。SHRで車いすの障がいの方に挨拶してもらったり、LHRで人権フィールドワークを実施したりして、生徒自身の人権意識向上につなげることはできたが深いところで生徒自身が自己の内面に向き合い、互いに思いを伝え合い、異なる立場や意見への配慮の重要性を認識して、互いの人権を尊重する関係をつくるまでには至らなかった。	
18		自らの将来を想像し、進路希望の実現を目指して自主的に行動する態度を養う。	一人一人の進路希望をしっかり聞き取り、卒業後の目標を具体化させるとともに、それぞれの思いに寄り添いながら、必要な手段を提示して実現につなげる。	3.8	4.0	進路実現に向け、生徒の自主的行動を支援しなければならない状況があった。また、家庭の経済状況により、進路変更せざる得ない生徒がいたが本人の努力により、進路実現ができた。ただ、本人の自主的行動や努力だけでは厳しく、社会的に様々な経済的支援の充実が必要となるなど課題が残った。	
19	人権教育推進委員会	人権教育推進体制や校内外の人権関係との連携	人権教育推進委員会を中心に映画鑑賞会や人権講話、また、校内研修の実施や神戸地区県立学校人権教育研究協議会や全国人権研究協議会研究大会兵庫大会など校外研修や兵庫県在日外国人高校生交流会などに参加し、自分の大切さとともに他者の大切さを認めることができる人権感覚を育成する。	3.8	4.0	人権教育推進委員会を中心に映画鑑賞会や人権講話を行ったが、生徒配慮や時間など課題が残った。全国人権研究協議会研究大会兵庫大会で実践報告したが様々な意見が出た。兵庫県在日外国人高校生交流会などに参加し、人権感覚の育成は前進したものの深いところまでいきついていないなど課題が残る。	
20	特別支援教育推進委員会	校内支援体制の充実と通級による指導	外部講師と連携して合理的配慮をすすめる。特別な支援を必要とする生徒に対して通級による指導を実施する。	4.1	3.7	外部講師と連携して、生徒の実態把握について特別支援に関する研修会を実施した。新入生面談活用シートの分析によって、本校生徒の特別支援の必要な実態の傾向をとらえ、時間の可視化、授業内容の見通し提示、黒板の空間を区切る、聞く、書くの活動を分けるなど、生徒にわかりやすいUD授業を全校で推進した。また生徒指導部と連携し、生徒情報交換会を各学年会単位で困り感の背景理解と手立ての共有を行った。	